

脊椎外傷後の限局した大腿四頭筋筋出力低下の残存症例に対して ロボットスーツ HAL[®] 単関節タイプによるリハビリテーションを 行った1例

喜瀬 直紀¹⁾ 塩田 悦仁¹⁾ 後藤 恭輔¹⁾
小谷 尚也¹⁾ 福田 宏幸¹⁾ 齊田 和哉¹⁾
鎌田 聡¹⁾ 坂本 哲哉²⁾ 田中 潤³⁾
井上 亨⁴⁾

¹⁾ 福岡大学病院 リハビリテーション部

²⁾ 福岡大学病院 救命救急センター

³⁾ 福岡大学病院 整形外科

⁴⁾ 福岡大学医学部 脳神経外科

要旨：脊椎外傷患者に対し、術後よりロボットスーツ HAL[®] 単関節タイプ (HAL[®]-SJ) を使用し良好な結果を得た。症例は24歳、女性。第2腰椎破裂骨折により大腿四頭筋に麻痺を生じ、9週間 HAL[®]-SJ によるトレーニングを行った。その結果、術後2週目より介入9週目に大腿四頭筋の Manual Muscle Testing (MMT) 1 から MMT4 までの改善を認めた。今回、脊椎外傷による大腿四頭筋の筋出力低下に対し、HAL[®]-SJ によるリハビリテーションで回復が得られる可能性が示唆された。

キーワード：脊椎外傷, ロボットスーツ HAL[®] 単関節タイプ, フィードバック, リハビリテーション